

どんな商店街？

楽々園商店街は佐伯区の西にあり、広島電鉄楽々園駅を中心に交通の要所として発展した商店街です。かつて楽々園の地にあった楽々園遊園地は、広電の電車に乗って楽々行ける遊園地として、戦前の昭和11年に開園し昭和46年の閉園に至るまで多くの人々に夢と希望を与えてくれました。そのような歴史のある町でお客様に安心して買い物をしていただける商店街を目指すため、楽々園センター商店街振興組合を昭和62年に設立しました。

楽々園商店街のイベント活動は、お客様に対して日頃の感謝を示すという趣旨で始めたものですが、近年は、店舗のためのイベントになりつつあります。このような状況では、いずれ、お客様が離れてしまうとを考え、改めてお客様の笑顔を見たいという原点に返り、イベントの企画運営を考え直す必要がありました。そのためにも、まず、イベントに取り組むメンバーの団結力を高めることが必要だと考え、組合員同士や地域団体、地域住民との交流を深め、商店街や地域を盛り上げようという雰囲気を作るとともに、SNS等を通じて商店街、組合員の店舗、地域の取組み等を地域内外に広く知ってもらい、商店街や地域のイメージアップを図るといった取組みも開始しています。

また、楽々園地区はマンションや住宅の急増により人口が増えており、電車、バスに加え、AIオンデマンド交通がスタートするなど周辺地域からのアクセスが良く、温泉施設等の娯楽施設が立地していることなどから、他の地域より人が集まりやすいという特徴があります。今後は、このような地域特性を踏まえ、高齢者や車いすの方を含めたすべてのお客様が安心して、商店街を利用できる環境づくり等についても、検討していきたいと考えています。

めざせ！ 商店街のイメージアップ！！



楽々園センター商店街振興組合

■お客様の笑顔を見たいという思いを忘れずに

商店街の活動は、組合員同士が協力して取り組むだけでなく、地域団体や地域住民と一体なって取り組むことで、商店街や地域に来ていただいたお客さまの笑顔につなげることができると考えています。今年度はコロナ禍の影響により中止したイベントもありますが、例年、商店街では、以下の3つのイベントを実施しています。

1つ目は、1月に開催する「都道府県対抗駅伝応援イベント」で、商店街内を歩行者天国にし、他県の県人会や地域団体と協力し露店の出店をするなど、全員で駅伝を応援することで地域の一体感を醸成しています。



2つ目は、7月に2週にわたって行う「土曜夜市」で、組合員や地域団体が協力し、ダンスや歌のステージ、各催しのブースを配

置するなど子供から大人まで安心して楽しめるイベントとなるように、商店街と地域団体が一体となってイベントを作り上げています。

3つ目は、12月からの年末大売出しに合わせ、組合員が協力して、イルミネーションを飾り付けています。寒い冬にほっとするような空間を演出することで、地域の安全・安心につながり、地域住民からも毎年楽しみにしていると好評で、商店街や地域のイメージアップにつながっています。



また、今年度は、コロナ禍で大変な状況であるからこそ、助け合いの精神をもとに、広島市の補助金を活用した飲食店向けの「みらいチケット」の販売、「マスクプレー」の無料提供、地域住民を対象としたお得な「スタンプラリー」を実施し、組合員同士や地域との団結をより強固なものにすることができました。

■人と人のつながりを大切にする商店街をめざして

助け合うということは多くの人々の協力のもとに支え合う心が必要だと思います。商店街では、小規模な店舗であるからこそできる目の届く支え合いを目指していきたいと思っています。それは、高齢者や車いすを使う方、障害のある方、小さな子供を連れた方などが再び訪れたいと思える商店街です。きっとそのような商店街は自然と優しい声掛けができる、誰にとっても心地よい場所であると思います。

